

研修報告書No.16

所 属: 県外病院研修医

研修先: 本山町立国民健康保険嶺北中央病院

いの町立国民健康保険長沢診療所

本山町立汗見川へき地診療所

いの町立国民健康保険大橋出張診療所

私は平成 30 年 1 月 29 日から 2 月 23 日までの約 1 ヶ月の間、本山町立国民健康保険嶺北中央病院を拠点に、いの町立国民健康保険長沢診療所、本山町立汗見川へき地診療所、いの町立国民健康保険大橋出張診療所で研修させていただきました。

大学病院での研修では診断と治療を学ぶ機会が多くありましたが、訪問診療、診療所診療などの地域に根付いた患者さんに寄り添う医療について学ぶ機会も初期研修期間中に経験したいと考えていました。高知県ではそのような経験を得ることができ、また県全体で若手医師の育成の支援に力を入れているということを知って、今回の地域医療研修で高知県での研修を志望しました。

嶺北中央病院は嶺北領域では唯一の一般病床をもつ公立病院です。本山町、大豊町、土佐町、大川村の嶺北 4 町村を診療圏としています。診療圏人口は約 13,000 人に対して、常勤の先生は内科 5 人、外科 1 人のみで、整形外科・皮膚科・脳神経外科・婦人科・泌尿器科では高知大学からの非常勤の先生が診察しています。医師が足りない現状を実感しました。

嶺北中央病院での研修では、救急外来や病棟での診察のほかに、点滴、血ガス、中心静脈カテーテル挿入、胸腔穿刺、関節穿刺、熱傷処置などの手技をさせていただきました。嶺北地域の高齢化率は 46% と高く、外来や病棟で診察した患者さんの年齢層は 80 代、90 代、なかには 100 歳を超える方もおられ高齢の方がほとんどでした。患者さんの方言に慣れるのに最初苦労しましたが、徐々に患者さんとのコミュニケーションがスムーズにいくようになりました。主に内科での研修でしたが、大腿骨頸部骨折や腰椎圧迫骨折など整形外科の症例も多く診ることができて勉強になりました。高齢化の進んでいる地域では骨密度低下による骨折の症例が多いことを実感しました。リハビリテーションのカンファレンスに参加させていただき、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、地域医療連携室職員の方々が入院患者さんの退院可能の有無や退院後の方針について話し合っている様子を拝見することができました。独居や夫婦二人暮らしの高齢の患者さんは自分たちだけで自宅で生活したり病院を受診したりするのが困難な場合が多く、そのため他病院や他関連施設と連携し、患者さんの退院後の生活をどう支援していくかを検討し実践していくことの大切さを改めて感じました。

研修中、週に 1 回程度、患者さんのご自宅、総合介護老人福祉施設の天空の里、障害者支援施設のしゃくなげ荘への訪問診療にも同行させていただきました。訪問診療や診療所での診察では、問診、バイタル測定、胸部の聴診、両下腿の触診、薬剤の定期処方等を行いました。バイタル安定で症状がなく定期処方だけをもらう患者さんに対しても、話を丁寧に聞き、聴診や触診をしっかりすることで、診察後には患者さんに笑顔で「ありがとう」と言っていただけでした。患者さんと正面から向き合っていくことが患者さんの満足度向上に繋がることを改めて実感しました。

診療所においては、症状が安定していても何週間かおきに定期的に患者さんを診ていくことで、患者さんが急に来院しなかった場合にすぐに対応できるということを学びました。患者さんの周囲に住んでいる方たちから情報を得て、患者さんの状態を把握し、緊急性のある場合は他病院に紹介したりして地域全体で患者さんを支えていくことの大切さを感じました。

地域医療研修全体を通して、高齢化の進む地域医療が抱える問題とその対策について深く考えることができ、非常に貴重な経験をさせていただきました。多くの先生方、他医療関係者の方々、他関連施設の職員の方々にご指導いただけたことに感謝しております。今回の研修で学んだことを今後の臨床にも役立てていきたいと思えます。